

●みよたふるさと寄附（ふるさと納税）のお願い●

御代田町のまちづくりに あなたの力をお貸しください

御代田町出身の方々、御代田町ファンの皆さまにお願いです。御代田町では活力あるまちづくりのため、また、多くの人々に愛着をもってもらえるふるさとづくりのため、さまざまな施策を行っています。力強く施策を推進していくために、ふるさと納税制度を利用してあなたの力をお貸しください。心ばかりのお礼として、魅力あふれる御代田町ならではの特産品をお贈りします。

御代田町の返礼品例（返礼品は随時変更されます。御代田町ホームページの「ふるさと納税」サイトでご確認ください）



信州そば三昧セット
やまいし株



焼き菓子セット
フェリーチェ



自家採取生ハチミツセット
土屋養蜂



野沢菜浅漬
西軽井沢物産株



高級貸別荘
「クラスベッソ西軽井沢」宿泊券
class vesso 西軽井沢



フォーマルバッグ
ロイヤルスタンド
濱野皮革工芸株



ムーギチョコレート
株レーマン



信州牛のプレミアム
ビストロハンバーグ
Bistro Baron Capricieux

●ふるさと納税の方法

1 ポータルサイトを利用する 下記サイトから申し込み、寄附できます。

さとふる



楽天



ふるさとチョイス



ANA



さとどこ



2 手書きの申込書を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。申込書を郵送します。
申込書は御代田町ホームページの「ふるさと納税」サイトからもダウンロードできます。

御代田町役場 企画財政課地域振興係

TEL 0267-32-3112 FAX 0267-32-3929 MAIL tiikisinkou@town.miyota.nagano.jp

御代田町ホームページ <https://www.town.miyota.nagano.jp/>



明日へ



先人達の手により築き上げられてきた礎の上で、町が持続可能な振興・発展をとげるべく、平成28年度から第5次長期振興計画に基づいて、自立した魅力あるまちづくりに向けて邁進しています。令和3年度からはその後期計画がスタートします。



[施策の大綱]

- 人と自然が共生し安全で快適なまちをつくります
- 町民誰もが希望と安心の持てるまちをつくります
- 次代・郷土を担う人を育み文化のかおるまちをつくります
- 個性あふれ競争力ある産業振興のまちをつくります
- 町民自治と効率的な行政運営のまちをつくります

第5次御代田町長期振興計画

前期：平成28（2016）年度～令和2（2020）年度
後期：令和3（2021）年度～令和7（2025）年度

人と自然が共生し安全で快適なまちをつくります

子どもたちがのびのび成長できます

安心・安全な住みよい生活環境は、すべての町民の願いです。御代田町は、上下水道をはじめ生活基盤を支えるライフライン、道路網などのインフラ整備はもちろん、町面積の40%を自然公園が占める恵まれた立地を生かし、安らぎと潤いあふれる環境のもと、次代を担う子どもたちが健やかに育つまちづくりを進めています。

また、近年は全国的に自然災害の被害が甚大化しやすい傾向にあります。活火山である浅間山の麓で暮らすうえでも、災害への備えは欠かせません。自主防災組織の育成・強化、広域消防との連携強化等、防災体制を万全に整えるとともに、日頃から暮らしの安全を守る各種訓練・予防啓発活動に取り組んでいます。



みんな裸足で運動会

平成21年(2009)、町民広場の天然芝生化を記念して始めた事業。小学生を対象に、裸足になって運動やレクリエーションを楽しむ。未就学児対象の「ちびっこ裸足で運動会」も開催。



龍神の杜公園

御代田駅近くに位置する中核的な公園で、龍をモチーフにした大型遊具が子どもたちに親しまれている。「龍神まつり」の舞台にもなる。



やまゆり公園

町北部の中核的な公園。子どもたちの遊び場「わんぱくの森」、マレットゴルフ場など三世代で楽しめる憩いの場。



雪窓公園

町のほぼ中央に位置する中核的な公園。広い芝生広場、野球場や多目的グラウンドを備えている。



ふるさと大橋

佐久市と町の南部をつなぐふるさと農道にあり、湯川にかかる全長190mの橋。眼前に浅間山を望む絶好のロケーションで、「浅間八景」の一つ。

自主防災活動

「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、町内8地区で自主防災組織が立ち上がり、地域の実情に合った防災減災活動を行っている。



見守りボランティア

毎朝の登校時間にボランティアの皆さんが、小・中学生の見守り活動を行なっている。



安全・安心、そして活気あるまちを

清万地区に自主防災組織ができたのは平成31年です。これまで会報配布での啓発活動、防災訓練の企画やパトロールを行い、地区のハザードマップ作成に取り組んできました。令和元年東日本台風では、早朝、大雨・洪水注意報が発令されてから随時連絡を取り合い、警報が出た時点で区長と相談して避難場所を設置。特別警報に変わったときは、要支援高齢者の自主避難を助けることができました。今後は区民全員が参加しやすい組織にして、人のつながりが深く、活気ある地区にしていきたいと思っています。



防火士
堀籠茂樹さん

この人に聞く！

町民誰もが希望と安心の持てるまちをつくります

元気いっぱい！高い健康意識！

年齢や障がいの有無に関わらず、誰もがいつまでも安心して暮らすことができるよう社会福祉の充実を推進しています。とくに進行する高齢化に対応するため、フレイル（虚弱）予防のための介護予防事業を広く展開しています。住民主体の介護予防教室を町内6か所で毎月開催していることも大きな特徴です。御代田町は、要介護認定率が県内で最も低く（2020年6月末現在）、低額な介護保険料を実現しました。今後も社会福祉協議会やNPO法人、住民団体などと連携しながら、『お互いに 尊重し合い 支え合い 笑顔あふれる わが町みよた』を合言葉に、住民同士で支え合える地域づくりを推進します。



みよた町民ふれあい広場

毎年恒例の福祉イベントで、町内外の施設・団体の物品販売やステージパフォーマンスなど、町民の交流・ふれあいの場となっている。



働き盛りの健康実践セミナー

働き盛りで日頃運動する機会を得にくい40～60歳代の町民が対象。ストレッチや有酸素運動など運動不足を解消し、健康づくりに役立つ知識が得られる実践型セミナー。



住民主体の介護予防教室

65歳以上の要支援認定者などを対象に、地区の世代間交流センターなどで毎月開催。



移送支援

社会福祉協議会やNPO法人と連携し、要介護・要支援認定者などの外出支援を行っている。主に通院などに利用できる。高齢者と障がい者が対象のタクシー利用助成事業も、日常生活の移動するとともに、社会参加を促すことで精神的・肉体的な健康保持につながっている。

介護保険料の安さ

県内/63団体中

2位

(第7期：平成30年度～令和2年度)

介護認定率の低さ

県内1位/63団体
全国12位/1517団体

11.5%

(2020年6月末現在)



保健補導員
白井佳代子さん

この人に聞く！②



自分たちの健康は、自分たちで守っていこう

私たちの仕事は、「自分たちの健康は自分たちで守っていこう」をモットーに、各地区で開催される健康教室などで保健師さんのお手伝いをしたり、研修で知った健康づくりの知識を地域の皆さんに伝えていくこと。今は町内各地域で68人が活動をしています。

この活動を通じて自分自身の健康への関心が高くなり、それが家族の健康につながってさらに地域へと広がっています。皆さんの予防意識の向上、感染症対策の一助にもなり、この仕事をやって良かったと思っています。



民生委員
柳沢充夫さん

この人に聞く！③



雑談を楽しみながら、地域のつながりを深めたい

民生委員は、担当地区内で困っている人の相談に乗り、行政のセーフティネットにつなげていく仕事です。なんでも気軽に話せる繋がりを大切に、雑談の中からお互いの信頼関係が生まれると感じています。

防災のことを考えると、地区の役割がますます大きくなっています。最近では移住されてくる方も多く、価値観が多様なので、どう地域に溶け込んでもらうかも課題です。いつでも楽しく会話のできる人をめざし、テーマも目的もなくおしゃべりを楽しめれば、人と人のつながりも自然に深まります。

働きながら安心して子育てができるまちです

共働きで子育てしやすいまち

子育て支援は御代田町が最も力を注いでいるテーマの一つ。町では「みよたっ子育てひだまりプラン」を策定し、子育て・教育環境の充実、さらに仕事と子育てを両立できるまちを目指してきました。町内には公立保育園が2園、私立保育園が3園、私立幼稚園が2園ありますが、それぞれが特色ある園を運営し、待機児童ゼロを実現しています。また学童対象の児童館では、低学年対象であった受け入れを高学年まで拡大しました。令和2年度(2020)には、役場内に「子育て世代包括支援センター」を開設。妊娠・出産から育児までの多様なニーズに対する支援体制を整え、助産師・保健師・栄養士などの相談員が子育て全般に関する相談に対応しています。



ひだまりっこ

未就園児を対象として、さまざまな親子の遊び、体操、絵本の読み聞かせや季節にあった活動などを楽しむ。子育て中の保護者の交流、情報交換の場にも。



ブックスタート事業

10か月児検診時に絵本をプレゼントし、絵本を通じた親子のふれあいを促進している。また「セカンドブック事業」として、低学年時に一度は読んでほしい本35冊を学級文庫として、新1年生の各クラスに贈呈。

子育て支援事業

1 出産祝金

出産を祝福して、お祝い金1人1万円を支給します

2 産後ケア事業

助産所等に宿泊しながら、心身のケアや育児のアドバイスを受けられます

3 子育て応援ヘルパー派遣事業

家事、育児の援助を必要とする保護者に子育て応援ヘルパーを派遣します

4 ファミリー・サポート・センター事業

子育ての援助を受けたい人に対し、援助する人を紹介します



未満児保育

需要が増えている3歳未満児の保育受け入れ体制の充実、一時保育や延長保育など働く保護者に対する支援を促進している。



この人に聞く！
東原児童クラブ保護者会会長
堀籠里恵さん



子どもたちも仲良しに、お母さん同士のつながりもー

町内で自営業をしています。小学1年生から6年生まで3人の子どもを育てていますが、これまでも保育園にお世話になり、また「ひだまりっこ」など無料で参加できる地域のイベントのおかげで、子どもたちも仲良くなり、お母さん同士のつながりができて、本当にうれしかったです。

今は児童館で預かっていただいています。自営業をしていると、仕事の都合でどうしてもお迎えが遅くなる時があるのですが、ここでは午後6時まで預かってもらえるので助かっています。

次代を担う人を育み、文化のかおるまちをつくります

夢の翼を思いっきり広げて！

町内には小学校2校、中学校1校があります。「県下一の教育のまち」を目標に掲げ、家庭や地域も、まち全体で学びの意識を高めながら、学校と地域社会がともに子どもを育てる信州型コミュニティスクールを推進しています。夢サポート塾（公設学習塾）のほか、令和元年（2019）には小中学校のパソコン整備にあわせ、学習内容を予習・復習できるアプリケーションを導入し、自宅での学習をサポートしています。学校現場では、小学校の英語授業、視野を広げる体験型学習や地域学習なども積極的に取り入れながら、子どもたちの豊かな心と健やかな身体の育成を目指しています。



おいしく、安心安全な学校給食

栄養教諭が中心となって各学校と連携し、町内の旬の農産物を味わうメニューを取り入れるなど、地産地消や食育を推進する給食を実施。令和2年（2020）7月から給食費を無償化。

部活動（中学校）

御代田中学校では吹奏楽部、演劇部などの文化部と、野球部、サッカー部などの運動部、計14の部活動がある。



児童館

町内に2か所ある児童館では、学童対象の放課後児童クラブの受け入れ対象を低学年から高学年まで拡大し、保護者の仕事と子育ての両立支援をしている。



思春期ふれあい体験学習

中学2・3年生を対象に、乳幼児とのふれあいを通じて命の尊さや性の尊厳、家庭の大切さを学ぶ取り組み。



COLUMN



スポーツ少年団

町内には7つのスポーツ少年団があり、活発な活動を行っています。また、少年団に参加していない子どもたちも参加できるスポーツ教室などの開催も推進しています。

▼ミニバスケットボール、バレーボール、硬式テニス、少年軟式野球、サッカー、ジュニアカーリング



この人に聞く！

御代田中学校 生徒会長（令和2年度）
吉井勇翔さん



この中学校には豊かな青春時代を過ごす環境がある

今は生徒会と柔道部に全力投球。感染症対策で厳しい1年ですが、この時代を反映し、令和2年度にしかできない特別な生徒会にしたいと思っています。御代田中学校は、先生たちの人柄が魅力的で、校舎を含めて学校全体に開放感があります。僕たちが本当に豊かな青春を過ごせる環境があると思います。

来年は町外の高校に進学しますが、いずれはこの町に住んで中学か高校の教員になりたい。多感な青春時代を過ごし、成長していく子どもたちの姿を近くで見守る仕事に就きたいと思っています。



ステップアップ塾：小学4年～中学2年を対象で、週1回、放課後、通っている学校で開講。小学生は算数、中学生は数学か英語を選択できる。



夢サポート塾

中学3年生を対象で、英語と数学の2教科。事前テストにより習熟度別の小人数クラスを編成。1教科70分、受講料は月2000円。クラスのほぼ半数が受講している。

TOPICS
2

「夢」を大きく育てたい

—ステップアップ塾、そして夢サポート塾



自信をつけて勉強が好きになる

放課後の南小学校の教室。20人ほどの子どもたちが静かに算数の問題用紙に取り組んでいます。先生は机の間を歩きながら、ときおり子どもたちの質問に答えたり、鉛筆が止まった子に解き方を指導したり…。

これは授業の補習ではなく、御代田町が令和元年から開講している`ステップアップ塾、です。勉強したいという小学4年生から中学2年生の子どもたちを募り、放課後の教室を利用して開講。一人ひとりの

進捗に合わせて復習し、基礎学力を向上させながら学習意欲を高めていくことが目的です。子どもたちに感想を聞くと、「クラスの勉強に沿ってやれるので、自信がつく」「わかれば勉強が好きになる、ここで少し好きになりました」と前向きな答えが返ってきました。

教える先生は教職員OBのベテラン。前年まで南小で教壇に立っていた茅野郁子先生は、「席も自由に座り、集中できる環境に気がついてます。負けたくないというライバル関係もできているようで



みんなそれぞれのペースで楽しんで進めています！



す」。また中村千秋先生は、「個別に対応しています。どうして、と質問してくる子にきちんと返していくと、『わかった』と声上がる。この達成感を大事にしています」と話しています。

中学3年生になったら`夢サポート塾、

高校受験を控えた中学3年生になると、学力向上に加え、受験対策が大きな課題になってきます。そんな生徒のために御代田町は`夢サポート塾、を開講しています。英語と数学の2教科で、受験指導に慣れた民間の講師が指導する9人以下の少人数クラ

スの公設学習塾です。

子どもたちは高校受験を終えると、大学受験、就職試験と、人生のさまざまな難関にアタックしていきます。そんなとき「学力では都会の子にかなわない」と、絶対に思わせたくない、御代田町で芽生えた`夢、を、全国へ、さらに世界へと大きく育ててほしい—そんな思いから、教育環境のいっそうの充実を図っていきます。令和2年6月には、国に先行して町独自で中学3年生全員にタブレット端末の貸し出しも実現しました。

郷土を担う人を育み、文化のかおるまちをつくります

学校の外にも学習機会がいっぱい！

年齢に関わらず、毎日をいきいきと過ごすためには、世代を超えた交流の場、生涯を通じた学びの意欲に応える場も大切です。町の複合文化施設「エコールみよた」は、生涯学習の拠点。教育委員会と、公民館、町立図書館、博物館「浅間縄文ミュージアム」のほか、ホールや調理室、楽器練習室なども備えています。また、「子どもは社会で育てる」という気風を育みながら、学校や地域という垣根を越えて、ふるさとの自然や歴史を学ぶ課外学習「なんでも探検隊」や「こども自然探検隊」を行っています。このほか総合文化展や町民大運動会など、大人も子どもも幅広い世代が参加できる交流・学習の機会を推進しています。



石尊山登山、にこり川源泉



田植え（手植え）体験



神津牧場 牛の行進を見学



稲刈り（手刈り）、はぜ掛け体験

こども自然体験隊

小学生を対象に年5回開催。浅間山麓の豊かな自然を次世代へと受け継ぐために、植物や野鳥観察、宿泊体験など自然に親しむ活動を行っている。



こども自然体験隊 石尊山登山 山頂にて

なんでも体験隊

親子で農作業を体験しながら、食べ物の大切さを学ぶ。教えてくれるのは町内の農業者の方々。



町民大運動会

毎年10月に開催され、40回以上も続いてきた町の恒例イベント。町民みんなが力を合わせ、大いに盛り上がる大運動会。



親子ふれ愛料理教室

対象は、小学1年生～中学3年生とその保護者。年6回開催。毎年テーマを決めて実施している。



きなんしまつり

総合文化展と芸能発表会が行われ、町民の皆さんが日頃の活動の成果を発表する場になっている。

御代田町立図書館

木の温もりにあふれた館内。図書館ボランティアの協力のもと、幼児から高齢者まで気軽に利用しやすいと、町内外のたくさんの利用者に親しまれている。



こども自然探検隊
尾台羊一さん

この人に聞く！



楽しみながら感じる自然が、将来の力にー

小学1～6年の子どもたちと一緒に山に登ったり川遊びをしたり、夏は宿泊体験もします。小学生といっても1年生と6年生では体力に大きな差があって大変ですが、探検隊を卒業した中学生・高校生のサポーターが手伝ってくれるので助かっています。

御代田町には自然がいっぱいありますが、この活動を通して、楽しみながら自然を感じてほしい。それは将来忘れない原体験となって、大人になってから苦しいとき、辛いときに大きな力になってくれると思います。

農業から個性あふれ競争力ある産業振興のまちをつくります

御代田の高原野菜は美味しい！

年間を通して冷涼な気候の御代田町では、高原野菜の栽培が盛んです。農業は町の基幹産業でもあり、特にレタスやブロッコリー、キャベツは町の代表的な特産品です。しかし、担い手や後継者不足等、農業を取り巻く環境は厳しさを増しているのも現状です。町では、働きやすい環境整備と積極的な就農支援による担い手の育成に努めるとともに、遊休農地対策としてソバ等の作付け拡大、品質向上に向けた取り組みを推進しています。また、農産物直売所等と連携しながら地産地消の促進、特産品の6次産業化に向けた施策推進に取り組んでいます。

直売所

町内には、JA 佐久浅間女性会御代田直売所（馬瀬口地区）、塩野中山間地直売所ひだまり（塩野地区）、直売所あぐりす（児玉地区）の3か所の農産物直売所があり、旬の地場産野菜がたくさん並んでいる。



そば畑

浅間山の火山灰地から成る大地は水はけが良く、気候も冷涼な高原地帯でそば栽培に適した地。良質のそばが育つ。



農産物収穫

町の特産農産物は、レタスなど高原野菜が中心。続いて米、花き、畜産の順となっている。



クライנגルテン大星の杜・面替

農業等を通じた交流人口の増加による地域の活性化を目的に、平成27年7月に開園。簡易宿泊施設付きの滞在型農園で、イベントを開ける交流施設も備えている。



御代田町の農産物生産販売額ベスト5 (出展：佐久浅間農業協同組合)



農業
古越
一さん
この人に聞く！



土、気候、おいしい野菜を育てる条件がそろっている

現在は、レタス、ハクサイ、キャベツ、ミニセルリーなどを作ってJAを通して首都圏などに出荷しています。標高約800mの高原、有機物を多く含む「黒ボク土」という火山特有の土、そして雨が少なく晴れの日が多いという御代田町の自然環境は、おいしい野菜をつくるには最適なんです。

どの作物をとっても本当においしい。本格的な直売所を作って地域の人にも味わってほしいし、子どもたちにもこのおいしさを知ってほしい。いずれはブランド野菜に育てたいという思いもあります。



有限会社トップリバー

2000年5月設立。御代田町と富士見町にある約50haの農場で野菜を生産・販売しながら、大規模経営農家育成事業、新規就農者の育成などを手がけ、農業者の高齢化や耕作放棄地化といった課題の解決に貢献している。

【社歴】

平成12年度	会社設立
平成20年度	長野県内初のJGAP認証取得
平成30年度	栽培管理システム「トップシステム」をクラウド化、これにより独立生産者の利用拡大
令和元年度	全国優良経営体表彰 担い手づくり部門 農林水産大臣賞受賞
令和2年度	Global-G.A.P 認証取得 第59回農林水産祭 園芸部門 経営(担い手づくり) 内閣総理大臣賞受賞

ITを駆使して、畑に行かなくてもパソコン上で生育状況がわかる。そのデータをもとに栽培管理することで効率的な農業を実現していく。



TOPICS 3

農業を高収益の成長産業に

—若き農業者たちの「働き方革命」—

農業人を育てる農場

浅間山麓に広がる広いキャベツ畑。この農場を管理しているのが鹿児島県出身の永崎亮太さん(26歳)です。経験も知識もなく、農業で独立することをめざしてトップリバーに入社し、今では育てる野菜に自信が持てるようになりました。

どうしてトップリバーを選ばれたのでしょうか。

「高原野菜の産地としてブランド力のある御代田町で、農業を学びながら全力で独立をサポートしてもらえる環境に魅力を感じました。農場や人の管理を学び、確実に自分の夢に近づいているという実感を

持てるようになりました」

巣立った農業人は全国に50人

トップリバーは、農業の経営者や農業人材を育てる会社。普通は仕事を覚えて会社を支える人材に育っていきませんが、ここでは3～6年間働きながら研修を受けて、仕事を覚えると独立します。社員は農家の後継者ばかりでなく、新規就農をめざす青年もいて、その平均年齢は永崎さんのように25～26歳。

「農業は儲かる仕事だということを若い人に伝えていきたい」と語ってくれたのは、専務取締役・嶋崎田鶴子さんです。



入社して4年、「独立に向けての確かな自信がついてきた」という永崎亮太さん。

「きちんと生産計画をたて、同時に販売計画もたてる。そしてきちんと管理して、数字で見えるようにしていけば、労働生産性が上がり、収益性も向上します」

データを活用したスマート農業

土質や施肥履歴などの圃場データの見える化、アプリを利用した収穫日の予測、圃場ごとの収支の見える化などスマート農業の活用により、生産や経営において、単なる勘や経験ではなく、客観的なデータに基づく分析が可能となっています。

農業をデータ化して管理する技術をさらに発展さ

※次世代農業人(スマートファーマー)育成コンソーシアム
信州大学繊維学部の中にある7団体・企業による共同事業体。AREC=浅間リサーチエクステンションセンター(上田市)を代表機関、トップリバーを実証農場とし、それぞれが持つロボット技術やAI、IoTなどの先端技術を活用して、担い手不足など農業の諸問題を解決する「スマート農業」の実現をめざしている。

せ普及させたいと、所属する次世代農業人(スマートファーマー)育成コンソーシアム[※]は、農林水産省が進める「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に応募して採択されました。その実証農場としての研究成果も注目されています。

すでにトップリバーを「卒業」して独立した人は全国で50人に達し、なかには20代で3,000万円を超える売上にまで成長した人もいます。御代田町、そして全国の農場で活躍しています。まさに日本の農業を変える「働き方改革」が始まっています。

商工業から個性あふれ競争力ある産業振興のまちをつくります

精密機器と食品加工、元気な企業がある

町の産業で中心を担っているのは製造業です。昭和30年代後半から、工場誘致条例により企業誘致を積極的に行ってきました。平成10年(1998)には工業用地を拡大し、地元企業のさらなる発展と工業振興を目的に、「やまゆり工業団地」を造成。隣接地への交通アクセスがよく、澄んだ空気と豊かな水に恵まれた環境を生かし、精密機器や食品加工の企業が多く進出しています。

商業では、独自コンセプトを持つ個性的な店舗が増えつつあります。今後は、開館予定の写真美術館などの新たな観光資源も取り込んだ、個性にあふれ魅力ある産業振興を進めていきます。



(株)ひらまつ (本社：東京都渋谷区)

令和3年春、町内の浅間サンライン北側エリアにリゾートホテル「THE HIRAMATSU 軽井沢 御代田」を開業。恵まれた自然環境を活かした新しいオーベルジュ(宿泊設備を備えたレストラン)体験を提供している。



(株)ヤッホーブルーイング (本社：軽井沢町)

主力製品「よなよなエール」をはじめ、全国的に人気を博しているクラフトビールメーカー。令和2年9月、事業拡大に伴い町内に新拠点「御代田醸造所」を開設し、本社機能と製造設備の一部を移す。



(株)レーマン

昭和36年誘致。様々なチョコレート菓子や焼菓子を製造しており、特に軽井沢工場(御代田町)で製造する「ムーチョコ」は日本の麦チョコのバイオニア。



シチズンマシナリー(株)

昭和58年誘致。様々な工作機械を製造しており、特にCNC自動旋盤のシェアは世界1位。



(株)エリアデザイン

平成29年誘致。半導体業界用各種プリント基盤製造装置の設計製造を事業の中核としている。



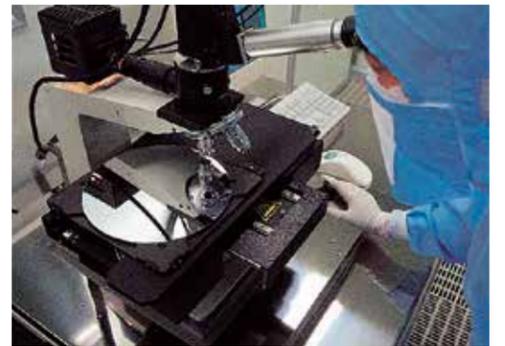
ミネベアミツミ(株)

昭和38年誘致。主力はボールベアリング(軸受け)などの機械加工品や電子部品。同社が製造する外径1.5mmのスチール製ボールベアリングは、世界最小の量産可能なボールベアリングとして世界記録に認定された(平成27年8月)。



日穀製粉(株)

平成20年誘致。軽井沢工場(御代田町)で製造される「そば茶」の原材料には、町内産そばが使われており、御代田町のそば栽培振興につながっている。



シチズンファインデバイス(株)

昭和34年誘致。腕時計などに使われるセラミック軸受けや水晶振動子を製造している。

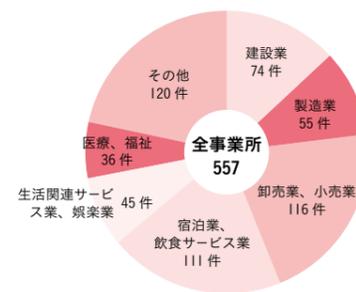
霧下そば地粉や内堀史彦さん
この人に聞く!



御代田町産の美味しいそばをご賞味あれ

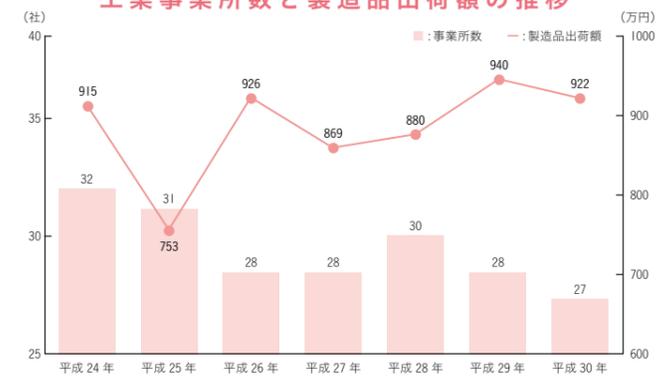
浅間山麓は、火山灰の土、日当たりのよい南向き斜面、冷涼な気候と、そば栽培に適した条件がそろっています。ここで採れたそばを皆さんに提供したいと店を始めました。名前のとおり、そば粉は100%御代田町産の地粉です。じつは父が20年前からそば栽培を始め、遊休農地でのそば栽培も盛んになってきています。そば粉は父の農場とJAから仕入れています。いずれは栽培から一貫して手がけたい。うちのそばはいわゆる更科そばと田舎そばのバランスがとれたおいしさが自慢です。ぜひ味わってみてください。

町内の全事業所数



(平成28年経済センサス活動調査)

工業事業所数と製造品出荷額の推移



※従業員4人以上対象 (県情報統計課「工業統計調査結果報告書」)

町民自治と効率的な行財政運営のまちをつくります

力をあわせてふるさとをつくろう

御代田町は、住民と行政が適切に役割分担をしながら、「自助」「公助」「共助」の精神にもとづいた自律と協働のまちづくりを目指してきました。行財政においては、経営的視点を積極的に取り入れて体質改善を図り、計画の策定、進行管理に民間経営の考え方（PDCA）の経営管理サイクルを導入し、適正な行政評価を行っています。また、町議会議員による議会報告と意見交換会「町民と議会の語る会」の開催、中学生模擬議会の試みなど、町民参加のしくみづくりを推進しています。今後も町の資源を最大限に生かして魅力を高め、「御代田町に住みたい」「住んで良かった」といわれるまちづくりを進めていきます。



左から 茂木伸一教育長（平成30年12月～）、小園拓志町長（平成31年2月～）、内堀豊彦副町長（平成31年4月～）



左から 五味高明議長（令和元年9月～）、市村千恵子副議長（令和元年9月～）



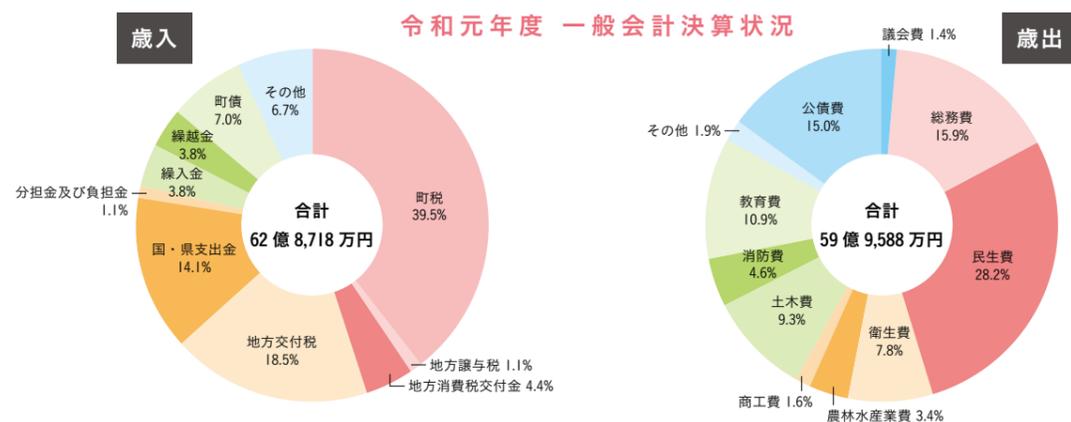
中学生模擬議会

令和2年1月、町初めての試みとして開催。御代田中学校3学年の各クラス代表生徒の子ども議員10名、学年代表生徒1名の子ども議長を選出し、町議会本会議と同様の手順で議論を行いました。



こども窓口

カウンターを子どもの身長に合わせた高さで設定している。



COLUMN



御代田町小中学校合同サミット

令和2年1月15日、電子メディアの利用について、子どもたち自らルールを考案。宣言（約束事）を制定するため、児童生徒や保護者、学校、教育委員会が一体となり、合同サミットを開催した。町内3つの小中学校でその内容について投票が行われ、賛成者多数で「電子メディア使用に関する御代田町子ども宣言」が3月17日に成立した。

昭和 63 年 (1988)

- 5/17 御代田町と小諸市の共同ごみ焼却処理施設「浅麓クリーンセンター」が小諸市南ヶ原に竣工
- 6/25 町スポーツ少年団結成大会開かれる
- 11 月 雪窓公園野球場竣工

平成元年 (1989)

- 1 月 南小学校教室 1 棟増設
- 3/31 町環境保全条例が制定される
- 10/16 国土利用計画法により「地価監視区域」に指定される

平成 2 年 (1990)

- 4/1 町誌編纂事業始まる
- 12/14 御代田町信越線存続強化期成同盟会町民総決起大会行われる

平成 3 年 (1991)

- 2 月 町のデイホーム、デイサービス始まる
- 3/27 都市計画街路「御代田佐久線」が開通(かりん道路)
- 4/30 小諸・御代田広域シルバー人材センター発足する
- 5/16 北陸新幹線工事の残土による久保沢の埋立て工事開始

平成 4 年 (1992)

- 3/4 北陸新幹線杭打ち式開催
- 4/1 雪窓公園完成
- 4/20 中学校第二体育館竣工
- 7/22 第 4 回長野県佐久大理石彫刻家シンポジウムが雪窓公園にて開会

平成 5 年 (1993)

- 3/27 上信越自動車道佐久 IC まで開通
- 4/27 広域農道(浅間サンライン)開通
- 7/25 信州博覧会「御代田の日」に龍の舞が出演
- 11/3 第 1 回きななしまつり開催

平成 6 年 (1994)

- 4/1 佐久警察署御代田町交番開設
- 4/2 雪窓保育園開園
- 10/1 やまゆり公園完成

平成 7 年 (1995)

- 6/23 やまゆりライン開通
- 7/12 草越バイパス開通
- 7/14 北陸新幹線御代田町分工事着工
- 7/23 メルシャン軽井沢美術館開館
- 8/13 御代田町有線放送農業協同組合解散
- 9/1 オフトーク通信サービス開始
- 9/30 第 1 回「御代田町を美しくする日」を開催
- 10/18 勤労者体育館落成(やまゆり体育館)
- 12 月 国土利用計画第一次御代田町計画策定

平成 8 年 (1996)

- 3 月 第 3 次長期振興計画策定
- 3/25 公共下水道御代田浄化管理センター竣工
- 4/1 大林児童館開館
- 10/31 井戸沢一般廃棄物処分場竣工
- 11/1 ごみ処理有料化

平成 9 年 (1997)

- 8 月 ふるさと大橋竣工
- 10/1 北陸新幹線・しなの鉄道開業
- 10/16 ふるさと農道開通

平成 10 年 (1998)

- 1/22 草越・広戸地区農業集落排水処理場竣工
- 1/26 長野冬季オリンピック聖火が御代田町内を走る
- 3/31 龍神の杜公園完成
- 5/1 県営住宅平和台団地 1 号棟竣工
- 8/25 やまゆり工業団地造成完了
- 10/1 地域福祉センター開所(ハートピアみよた)
- 12/8 新消防庁舎竣工

平成 11 年 (1999)

- 3 月 新大谷地橋竣工
- 6/7 焼町土器が国重要文化財の指定を受ける

平成 12 年 (2000)

- 4/1 介護保険制度始まる
- 7/28 新三ツ谷橋竣工
- 9/21 塩野御代田停車場線改良
- 9/30 やまゆり保育園大規模修繕工事竣工
- 11/24 馬瀬口バイパス開通

平成 14 年 (2002)

- 8/26 佐久市、臼田町、浅科村、御代田町任意合併協議会設立
- 12/1 プラスチック製容器包装の分別収集始まる

平成 15 年 (2003)

- 2/28 桜ヶ丘町営住宅建替工事竣工
- 4/8 複合文化施設まなびの館エコールみよた開館
- 8/8 児玉荒町線開通
- 9/26 佐久市、臼田町、浅科村との任意合併協議会から離脱

平成 16 年 (2004)

- 4/1 自律・協働のまちづくり推進計画策定
- 9/1 浅間山中規模噴火

平成 17 年 (2005)

- 3/31 御代田町次世代育成支援行動計画策定
- 4/1 雪窓保育園の増築工事竣工
- 4/15 御代田町やまゆり共同作業所開所

平成 18 年 (2006)

- 3 月 第 4 次長期振興計画策定
- 3 月 南小学校教室 1 棟増設
- 9/30 町制施行 50 周年記念式典

平成 19 年 (2007)

- 9/6 台風 9 号により大きな被害。停電、倒木、土砂崩れ、農作物への被害が発生

平成 20 年 (2008)

- 4/1 御代田町のふるさと納税(寄附)が始まる
- 75 歳以上を対象とした後期高齢者医療制度が始まる
- 9/12 町立図書館貸出利用者 20 万人到達(突破)(H15.4 オープン)

平成 21 年 (2009)

- 4/1 社会資本整備総合交付金都市再生整備計画事業が始まる
- 10/30 B&G 海洋センターの「町民広場」が「芝生広場」に名称変更

平成 22 年 (2010)

- 12 月 国土利用計画第二次御代田町計画策定

平成 23 年 (2011)

- 4/1 御代田中学校(新校舎)開校
- 4/7 学校給食共同調理場(親子方式)での給食開始
- 9/30 一里塚地区世代間交流センター竣工
- 12/9 御代田中学校建替え工事竣工

平成 24 年 (2012)

- 2/9 御代田町観光協会マスコットキャラクター「みよたん」誕生
- 3/23 広戸地区世代間交流センター竣工
- 向原地区世代間交流センター竣工
- 3/26 塩野地区世代間交流センター竣工
- 6/11 浅間しゃくなげ公園完成
- 7/7 浅間縄文ミュージアム入館者 30 万人到達(H15.4 オープン)

平成 25 年 (2013)

- 3/15 小田井地区世代間交流センター竣工
- 3/22 豊昇ふるさと公園完成
- 4/30 清万地区世代間交流センター竣工
- 児玉地区世代間交流センター竣工
- 5/6 第 1 回「浅間しゃくなげ公園まつり」開催

平成 26 年 (2014)

- 2/14 記録的大雪により、住民生活の混乱と農業施設への被害が発生
- 3/28 豊昇地区世代間交流センター竣工
- 4/1 社会資本整備総合交付金第 2 期都市再生整備計画事業が始まる

- 7/22 栄橋架替工事竣工
- 10/1 佐久市・立科町・軽井沢町と「佐久市・北佐久郡環境施設組合」を設立

- 12/19 三ツ谷地区世代間交流センター竣工

平成 27 年 (2015)

- 5/29 「信州みよたクラインガルテン大星の杜・面替」竣工
- 10/26 御代田町人口ビジョン・総合戦略策定
- 10 月 役場新庁舎建設地をメルシャン跡地に決定

平成 28 年 (2016)

- 3 月 第 5 次長期振興計画策定
- 大林児童館増築工事竣工
- 町立図書館貸出利用者 50 万人到達(H15.4 オープン)

- 3/31 メルシャン蒸留施設倉庫解体

- 7/31 役場新庁舎敷地造成工事竣工

- 9/30 町制施行 60 周年記念式典

平成 29 年 (2017)

- 3/23 東原児童館新築移転

平成 30 年 (2018)

- 5/7 御代田町役場新庁舎開庁
- 7/28 台風 12 号接近に伴い、第 46 回信州・御代田龍神まつりを中止

- 8/11-9/30 浅間国際フォトフェスティバル プレイベント開催

令和元年 (2019)

- 9/14-11/10 第 1 回フォトフェスティバル開催
- 10/12-13 令和元年東日本台風により県内各地で甚大な被害。自主避難を含め 110 名が避難。町内では最大約 2600 戸が停電したほか、道路や農地にも多くの被害が発生

令和 2 年 (2020)

- 新型コロナウイルス感染症、世界的規模で感染拡大。国内でも 4 月、政府の緊急事態宣言発令により全国的に行動制限
- 7/1 町内小中学校の給食無償化を開始
- 9/30 御代田町初のふるさと大使に NGT48 の安藤千伽奈さんが就任
- 10/24 中学 3 年生を対象とした公設学習塾「夢サポート塾」を開講
- 11/30 佐久市・北佐久郡環境施設組合が運営する「佐久平クリーンセンター」が竣工



役場庁舎 (1967)



新御代田駅 (1971)



ふるさと大橋 (1997)



エコールみよた (2003)



町制施行 50 周年記念式典 (2006)



御代田中学校 (2011)



御代田町役場新庁舎 開庁式 (2018)



第 1 回フォトフェスティバル (2019)